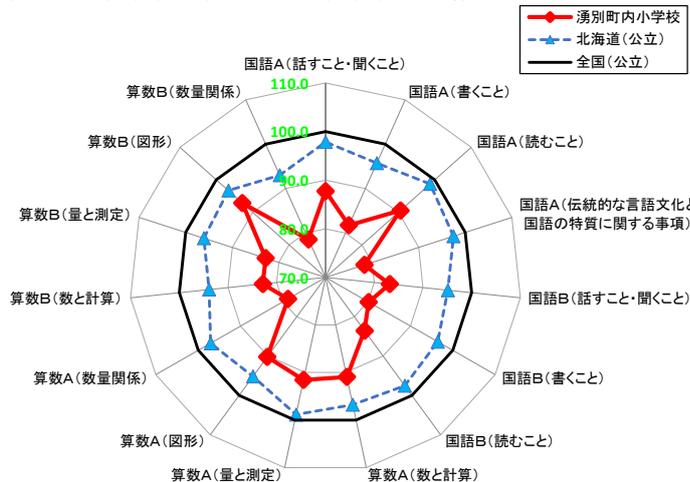


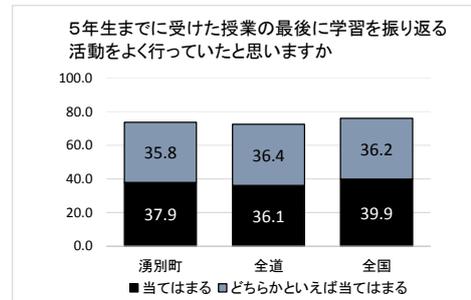
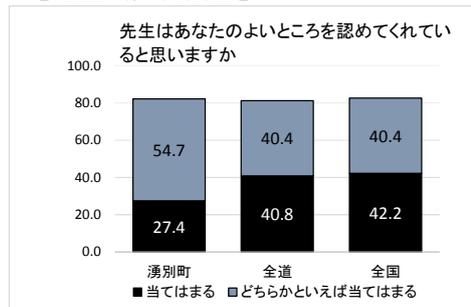
湧別町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:6、児童数:95名)

【教科全体の状況】

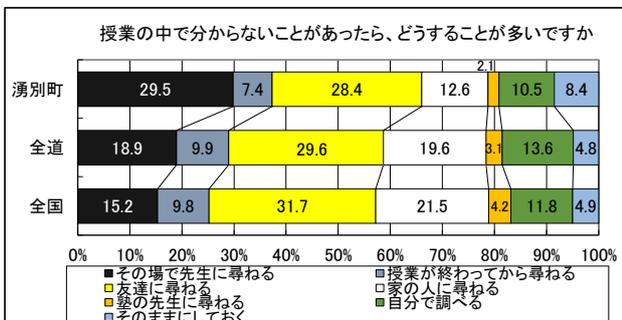
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



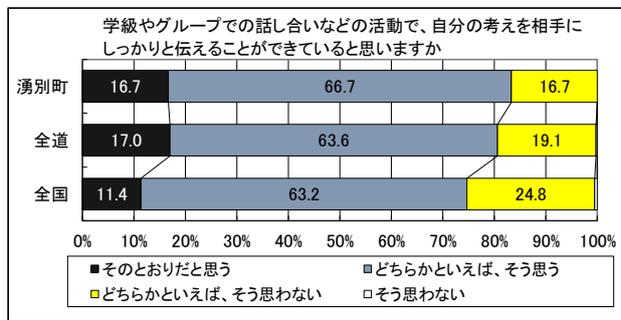
【児童質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語A・Bでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全国との差が大きい。 ○ 算数Aでは、「数量関係」、Bでは、「数量関係」で、全国との差が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級やグループで話し合い場を設けた取組を意図的に行ったことにより、「自分の考えを相手にしっかりと伝える」「分からないことがあったら先生に尋ねる」など意欲的に学習に取り組む姿勢が培われていると考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」の質問に「その場で先生に尋ねる」「授業が終わってから尋ねる」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合が、全道を上回っている。 ○ 「5年生までに受けた授業の最後に振り返る活動をよく行っていたと思う」と回答した児童の割合が、全道を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員が児童の能力を認める機会が多いことから、児童は意欲的に学習に取り組んでいることが考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

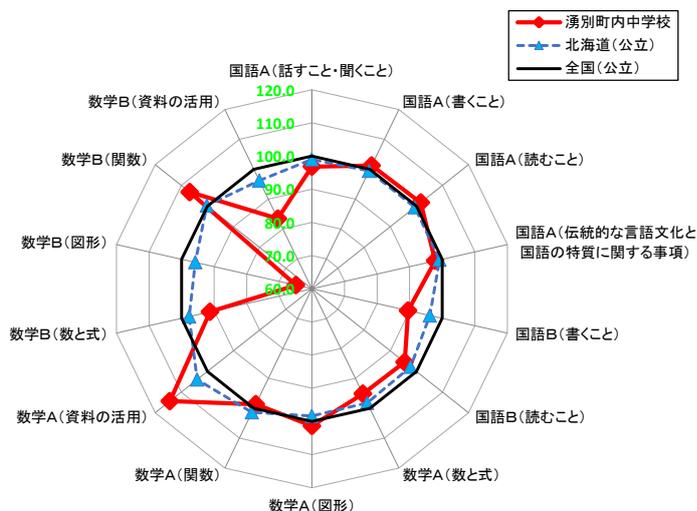
【湧別町の学力向上策】

- ◎ 各学校における学力向上改善プランの作成
- ◎ 児童生徒の理解の程度に応じた習熟度別学習、少人数学習、ティーム・ティーチング、放課後や長期休業中における補充学習
- ◎ 中高一貫教育の充実
- ◎ 発達障がい支援成果普及事業における発達障がいの児童生徒の理解と校内研修プログラム活用事例集を活用した取組の充実

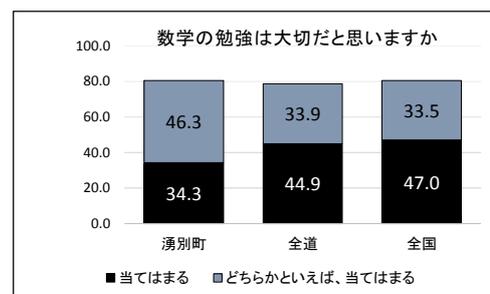
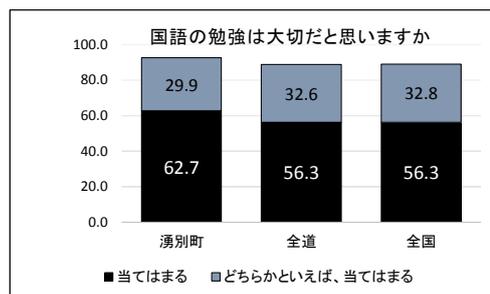
■湧別町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:3、生徒数:67名)

【教科全体の状況】

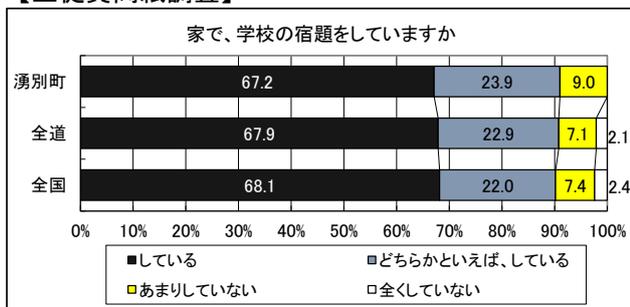
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



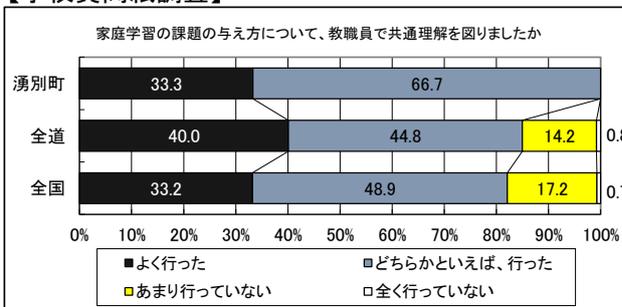
【生徒質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「書くこと」「読むこと」で、全国を上回っている。 ○ 数学Aでは、「図形」「資料の活用」、Bでは、「関数」で、全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の課題の与え方について、職員で共通理解を図り、家庭学習に取り組ませることで、家庭学習の習慣が身に付き、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られたと考えられる。 |
| 生徒質問紙 | ○ 「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |
| 学校質問紙 | ○ 「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 | |

【湧別町の学力向上策】

- ◎ 各学校における学力向上改善プランの作成
- ◎ 児童生徒の理解の程度に応じた習熟度別学習、少人数学習、チーム・ティーチング、放課後や長期休業中における補充学習
- ◎ 中高一貫教育の充実
- ◎ 発達障がい支援成果普及事業における発達障がいの児童生徒の理解と校内研修プログラム活用事例集を活用した取組の充実